令和５年度鹿児島市小・中連携研修会（伊敷グループ）　研究のまとめ

鹿児島市立伊敷中学校

１　グループ研究主題

「生きる力」をはぐくむ教育活動

～ ９年間の学びの継続を目指して ～

２　ねらい

児童生徒が小学校から中学校へ戸惑うことなく進学し活動していくために、小学校と中学校が連携を深める必要がある。その中で、９年間の学びの継続性を追求することを通して、特別支援教育の在り方、確かな学力の育成、並びにいじめ・不登校、中１ギャップなどの課題を解決し、児童生徒の不安を取り除き、充実した学校生活を送れる環境を整えていくことを目的としている。

３　内容

（１）「確かな学力の育成」→第１分科会
基礎・基本の定着,及び活用力育成に向けた各教科の指導法の工夫について

（２）「生徒指導の充実」→第２分科会
積極的生徒指導の視点に立った各校の取組について

（３）「特別支援教育の充実」→第３分科会
各校の取組（通常学級の支援が必要な子どもへの対応）に関する情報及び中学校進学へ向けて

（４）「特別活動（児童会・生徒会）の充実」→第４分科会
児童会・生徒会を通しての児童・生徒の活発な活動についての工夫について

４　研修会の実際

（１）実施日時

令和５年６月26日（月）　14：10～16：40

（２）参観授業

①１、２年生→9 教科の授業の参観

②3 年生→学活（専門班の今月の取組の反省、翌月の目標達成に向けての話合い）

③総合学級(特別支援学級)→教科授業

（３）分科会

４分科会にて主体的な「対話」を取り入れた話合い（ラウンドスタディ）を実施

（４）分科会報告

①第１分科会（学習指導）

<table>
<tr><td colspan="2">「確かな学力の育成」</td></tr>
<tr><td colspan="2">３校共通実践事項について
○２分前着席１分前黙想　○　机上の整理　○　家庭学習の充実</td></tr>
<tr><td>課　題</td><td>協議内容</td></tr>
<tr><td>小学校
○学力検査等の結果より
（草牟田小）
・国語
記述問題の無答率。
初見の文章の読解。
主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係の読取。
・算数
基本的事項の未定着（速さの意味、わり算の意味）。
記述問題、長文問題に慣れていない。
立式の意味（なぜこのような式が成り立つのか分かっていない）。
・個に応じた指導の改善・充実。
・自分の考えを表現することの指導の在り方。
（玉江小）
・短答、選択問題への取組に比べ、字数制限を伴う条件付き記述解答。
・自分の考えをもち、発表したり、的確にまとめたりする活動。</td><td>○　家庭学習について
・小中で共通実践するために、学校ごとによる家庭学習の状況の把握し、今後の取組の参考にしていく。

○　個別最適な学びを深めるために
→　NAVIMA の活用
（小学校）
それぞれの学習達成状況に違いがあるため、自分にあった取組として有効である。
（中学校）
中学生にとっては難易度が低いため、個別最適な学びにつながりにくい。</td></tr>
<tr><td>中学校
○　学力検査の結果より
・基礎的・基本的な知識・技能の定着。
・読み取る力・捉える力（文章から、資料から、図から、聞いたことから）。
・説明する力（理由の説明、方法の説明、特徴の説明、役割の説明、自他の考えの説明）
・書く力（自分の考えが伝わるように書く、まとめて書く）。</td><td>指導助言
○充実した宅習ができるように、どういう手立てをとるべきか考えていくべき。
○中学校の学習適応授業を通して、小学校６年生に中学校進学への見通しを持たせる。
○書く力は小学校、中学校に共通の課題のため、書く力を育てていく方法を検討する必要がある。</td></tr>
</table>

②第２分科会（生徒指導）

<table>
<tr><td colspan="2">「生徒指導の充実」
～積極的な生徒指導の視点に立った取組～</td></tr>
<tr><td colspan="2">３校共通実践事項について
〇三校連携ＰＴＡネットスリープ宣言　〇元気に挨拶ができる児童・生徒を育成する</td></tr>
<tr><td>課　題</td><td>協議内容</td></tr>
<tr><td>小学校
（草牟田小）
・いじめや友人とのトラブル。
・登校しぶりの児童への対応。
・スマホやタブレット、ゲーム機器などの使用方法。
・校内や地域でのあいさつや返事。
（玉江小）
・校内や地域でのあいさつ、返事。
・友人とのトラブルやいじめについて。</td><td>〇　スマホ、タブレット、SNS について
・「ネットスリープ宣言」を PTA と協力して継続していく。
・情報モラル教育を通して、正しい使い方を指導していく。
・情報教育の授業を計画していく。

〇　不登校、不登校傾向について
・「学校生活アンケート」、「いじめアンケート」、「学校楽しぃーと」などの計画的実施による現状把握と迅速な対応。
・スクールカウンセラーと連携。
・タブレットによるオンライン授業の実施を進めていく。
・今まで以上に小中連携を深め、情報交換していく。</td></tr>
<tr><td>中学校
・不登校、不登校傾向の生徒について。
・SNS の活用方法について。
・地域・保護者との連携。</td><td>指導助言
〇　生徒が休み時間にあいさつをしっかり行う様子や、授業に取組む姿勢を参観し、大きく成長していることを感じた。今後も小中連携を進めながら、児童生徒の成長をサポートしていく。</td></tr>
</table>

③第３分科会（特別支援）

<table>
<tr><td colspan="2">「特別支援教育の充実について」</td></tr>
<tr><td colspan="2">３校共通実践事項について
〇児童生徒の実態を把握し、　保護者と共通理解を進め、　進路指導を進める。</td></tr>
<tr><td>課　題</td><td>協議内容</td></tr>
<tr><td>小学校
（草牟田小）
・支援を必要とする児童や学級が多い。全員への支援は、もっと計画的にしていく必要がある。
・支援が必要な児童への対応の仕方。
・介助支援が必要な児童に対しての学習面での支援方法。
（玉江小）
・支援を対象とする児童が増加による、個に応じた支援の在り方。
・支援が必要な児童に対しての保護者との連携。

中学校
・通常学級での配慮や特別な支援が必要な生徒の増加と対応の多様化。
・時間を守ることなど、生活習慣の定着。
・生徒、保護者へのキャリア教育や進路学習の早期提案。</td><td>〇進路について
・中学校に入る段階で通常学級か特別支援学級か特別支援学校かを決めるために、早めの進路指導の相談を通して保護者と子供の実態をしっかり把握する必要がある。
・生徒の実態をいろいろな先生の目で見て、学校での様子を保護者に伝え、支援学級への進級の必要性を検討する必要がある。
〇支援員要請について
・支援員の数を増やして欲しい。
・教育相談での担任以外の相談の機会を設ける。
・PTA 前で、先輩ママの話を聞く機会を設ける。
〇通常の学級への入級のために
・生徒の困り感をわかってもらう。
・家と学校での様子が異なるので保護者と話す機会を設ける。

指導助言
〇通常学級に在籍する生徒の中でも、支援を必要とする生徒もいる。それが増加してきている。
〇中学校で、困っている子たちの支援をしっかりしていくこと、生徒の保護者への対応について。
〇支援学級の生徒や、通常学級に在籍する支援を要する生徒が、学習面や人間関係で学級で困っている。早期に対応していく必要がある。
〇小学校と連携を取りながら、支援の必要な生徒たち意見交換をすすめる。</td></tr>
</table>

④第４分科会（特別活動）

<table>
<tr><td colspan="2">「特別活動（児童会・生徒会）の充実」
～各校の取組（児童会・生徒会）を通して児童・生徒の活発な活動についての工夫～～</td></tr>
<tr><td colspan="2">３校共通実践事項について
○3 校共同での活動の検討</td></tr>
<tr><td>課　題</td><td>協議内容</td></tr>
<tr><td>小学校
（草牟田小）
・「リーダー性の育成」において、一部の児童でなくすべての児童を対象とした「リーダー性の育成」をどのように指導するかについて、小中間での共通理解。
（玉江小）
・各活動の目的の意識づけ。
・児童の自主的な活動を促すためにどのような手立て。

中学校
○伊敷中三大伝統の門礼、朝作業、黙想
・門礼ができている生徒とできていない生徒の二極化が見られる。
・朝作業に時間通りに取組めている生徒もいるが、取組が遅い生徒もいる。</td><td>・中一ギャップ解消のため、乗り入れ授業ができないか。
・中学校のリーダー研修会を小学生も一緒に行い、話合いの進め方を共有できないか。
・中学校の生徒会活動を紹介する。
・3 校合同でのボランティア活動ができないか。
・リーダー性を育むために、一人一役、一発言の機会を増やす。
・成長段階に合った話合い活動の充実。
・赤い羽根募金の 3 校合同実施ができないか。
・発達段階に応じて、学習適応授業を実践できないか。
・3 校で、話し合いや授業の進行マニュアルを共有できないか。</td></tr>
<tr><td></td><td>指導助言</td></tr>
<tr><td></td><td>○中学校の話合い活動を見て
話合い活動の流れが、しっかりしている
学級⇒学年⇒学校
○特別活動の位置づけ
児童・生徒の意欲を高め、自信をもたせる指導が大切
○構成的グループエンカウンターの活用
エンカウンターの後の、シェアリング、振り返りをすることで活動の意味が深まる。
○成功体験の積み重ね
○対話活動を取り入れる必要性</td></tr>
</table>